

## 2020年度活動報告 学部授業：日本語III（水）（西宮上ヶ原）

著者	長谷川 哲子
雑誌名	関西学院大学日本語教育センター紀要
号	10
ページ	72-72
発行年	2021-03-31
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10236/00029369">http://hdl.handle.net/10236/00029369</a>

## 2020 年度活動報告 学部授業：日本語 III（水）（西宮上ヶ原）

長谷川 哲子（関西学院大学経済学部）

### 1. クラス概要

この授業は2年次対象の必修科目として、週1回開講されている。当初は、話し合い活動を中心とした授業内容を予定していたが、2020年度春学期が全学的にオンライン授業となったため、急きょシラバスを変更した。授業目的は、「特定のテーマに関して、適切な段階を踏んで、思考を深め結論を導くことができる」「自らの思考過程をふりかえり、その改善が行える」という内容とした。それに伴い、到達目標も、「どのような思考過程が望ましいかについて、具体的なイメージを持つことができるようになる」「テーマに関連した資料の検討により結論を導き、それに対するコメント交換ができるようになる」「自らの思考過程をふりかえり、よりよい結論導出への改善が行えるようになる」という内容に変更して、全クラス統一シラバスを作成した。

### 2. 授業内容

授業は本来全14回のところ、最初の2回は全学休講、翌回は課題提出によるオンライン授業、翌々回は祝日休講となり、5回目よりZoomを使用した同時双方向型授業を実施した。オンライン授業化に伴い、大幅なシラバス変更を行った。オンライン授業化が決定したのち、使用ツールやインターネット接続環境に不安を訴える学生、教員も一定数見られた。そのため、シラバス変更の際に、授業内容、活動の形態、授業内外の課題、使用ツール、トラブル時の対応等について、同時双方向型授業の開始前に、授業担当者間で慎重に検討した。その結果、今学期は、学生の個人作業を中心とした授業内容に変更した。具体的には、テーマの是非を問うタイプの発表、現存する問題に対する解決策を提案するタイプの発表を個人で行うこととした。学期を通じて、学生が自分の作業内容を一方的に発信するだけにとどまらないよう、学生間、また学生と教員間での検討やフィードバックを行う時間や活動を設けた。成果発表として、各自が作成した発表用スライドを学生が各自で視聴するというオンデマンド型の形態をとり、コメントをLUNA 掲示板に書き込みあうということで、相互の成果を共有した。

### 3. 成果と今後の課題

当初、学生・教員に見られた授業環境の確保における不安は徐々に解消されたようであったが、オンライン授業化に伴うシラバスの大幅な変更において、同時双方向型の授業設計としては不十分な点が多く残ったままであった。オンライン授業だからこそできること、オンライン授業での双方向的活動について新しい可能性を積極的に探りたい。